

## 法政大学法学部履修要綱等

編集文責：遠藤 博

### 【82年度法学部履修要綱】

#### 都市政策（旧・都市問題）（共通）

現代都市は人類の作り上げた最も巨大な複雑な存在である。そこには土地、住宅、水、廃棄物等さまざまな都市問題を発生させた。しかし人類にとって都市社会は、宿命的な存在である。そこで都市を人類にとっての望ましい生活の場とするための新しい政策が必要になる。その政策の在り方、政策の担い手としての自治体や市民について考えてゆきたい。

テキスト 田村 明著「都市を計画する」（岩波書店）

### 【83年度法学部履修要綱】

#### 演習－都市政策－

現代都市は極めて巨大であると同時にあまりにも日常的である。われわれのほとんどが現に都市に生活している。農村でさえ、いまや都市化された生活をしているが、都市は日常的でありすぎるために意外にその内容や仕組みについては関心がもたれていない。

われわれは、たとい、直接に職業として都市や自治体にかかわらなくても、毎日、市民として都市にかかわって生きてゆく宿命にある。都市は決して天から与えられたものではなく人々の営みにより形成されてゆく。それなら、「市民の学問」として、都市がどう作られ、運営されていくか知るべきであり、また、何らかの積極的なかわり方を持つべきであろう。それは、市民自治の実現であり、日本の民主的社會形成の基礎でもある。

ここでは日本各地のさまざまなユニークな「都市づくり」の実例を通じて、都市政策のあり方を考えたい。

テキスト 田村 明・森啓編「文化行政とまちづくり」（時事通信）

### 【84年度法学部履修要綱】

#### 演習－都市政策－

都市はいまや最も日常的な生活の様式になった。われわれは、大都市と地方都市とを問わず、都市を離れ、都市と無縁に生活することはできない。しかし、生活基盤である都市が誰の力で意思決定され、どのように変化し、運営され、造られてゆくか無関心や無知も多い。都市は始めから存在したわけではなく、長い間の人間の営みによって形成されていく。その人々の政策や活動の如向（如何？）が都市の良否を決めてゆく。都市に住む人々は、どんな職業であろうとも、まず市民として身近な都市に関心をもち、その在り方を探究すべきであろう。そこに民主主義の基礎としての市民自治が生れる。都市政策はまず「市民の疑問」である。

ゼミでは、大都市ばかりでなく地方都市、小さな町をふくめ、できるだけ具体的な実例を通じて、現実の都市の動きや、それに対する政策の立案実践、その効果が困難な点、市民の役割などの諸問題について探究する。

テキスト 開講時に指示する。

## 【87年度法学部履修要綱】

### 都市政策

20世紀の初めから半ばごろまでは、日本は農村社会で都市はその中の例外的存在にすぎなかった。しかし急激な都市化が始まり、いまや日本列島全体が都市といってもいい状態である。この傾向は日本ばかりでなく世界的な傾向であり、20世紀を都市化の時代というなら、21世紀はまさに都市の時代である。このような都市はますます巨大化し、複雑化している。都市は多くの複雑な問題をかかえるが人類はそれから逃れることはできない。土地、住宅、水、緑、廃棄物など多くの問題は相互にからみあっており、個別の問題指摘や対症療法では解決できない。都市を人類にとっての望ましい生活と活動の場にするためには、総合的で長期的視点に立った都市政策が必要である。都市は長い間の人間の営みによって形成され、政策や活動の良否が都市のあり方を決めてゆく。都市に生活する人々はどんな職業であれ、まず市民として身近な都市に関心を持ちそのあり方を探究すべきである。都市政策はまず「市民の学問」である。また、これを如何に運営し、計画し、完成してゆくかは、市民の協力による専門的な政策能力を必要とする。その中心となるべき自治体のあり方についても考えてゆきたい。

テキスト 田村 明著『都市を計画する』（岩波書店）

『都市ヨコハマをつくる』（中央公論）

## 【93年度法学部履修要綱 第一部・第二部】

### 演習（都市政策）

テーマ：「都市の時代」の課題と“まちづくり”

来る21世紀は「都市の時代」である。我々のほとんどは都市に住み、都市的な生活をせざるをえなくなっている。しかし、現代の都市は本当に人が生活するに相応しいものになっているだろうか。現状ではあまりにも多くの問題を抱えてながら、市民も自分の問題として受け止める意識が希薄である。これは、東京のような大都市だけの問題ではない。地方都市にもそれぞれ多くの課題がある。東京は他の大都市はもちろん、地方との関係で成立しているし、日本の将来のためには、過大都市を抑制し、豊（か）で個性的な多様な都市をつかってゆく必要がある。そこで、このゼミでは、地方都市の出身者をできるだけ優先的に選抜したい。

本来、こうした都市や地域は、それぞれの地域の市民や自治体が、自分たちの問題として受け止めてゆくべきものである。自治や市民のありかたも基礎的な課題として取上げなくてはならない。

この演習では、都市における様々な課題（たとえば昨年の例では「住宅」「ゴミ」「土地」「交通」「国際化」「情報」など。今年は新たな課題をゼミ開始後に決める）を、二、三人のグループをつかって自主的に研究してもらおう。その発表を中心に全員で討論を行う。また、それぞれの出身地域の都市や自治体で、どのような地域づくり、まちづくりが行われ、また課題を抱えているかを夏休みのレポートで提出してもらい、そのいくつかについても、討論してゆきたい。

私自身は、中央官庁・民間会社・民間都市プランナー・自治体などの場において、都市づくりや都市政策の実践を行ってきた。とくに、横浜市では自治体に入り、都市づくりの立案者・責任者として、“みなとみらい21”、ベイブリッジ、港北ニュータウン、横浜スタジアムなど多くの事業を推進してきたし、

土地利用やアーバンデザインなどの政策も立案・実行に当たってきた。そうした実践者の立場から、現実の都市の問題にいかに対応できるかも、折にふれ話してゆきたい。

受講希望者は、次の参考書のうち少なくとも一冊は読んでおくこと。選抜は最初のゼミの時間に行う。

参考書：田村 明著『都市を計画する』（岩波書店）

『まちづくりの発想』（岩波新書）

『都市ヨコハマをつくる』（中公新書）

『都市ヨコハマ物語』（時事通信社）

『環境計画論』（鹿島出版）

## 都市政策

やがて終わろうとしている20世紀は人類史上でも稀にみる激変の世紀であった。僅かこの一世紀の間に急激な都市化が行われ、それまでの「農村の時代」が大きく変動した。一口にいえば、20世紀は「都市化の時代」であったと言ってよい。これは日本ばかりではなく、世界全体の傾向である。そして、来る21世紀は、人類のまだ経験したことのない「都市の時代」となる。現在すでにその入口にさしかかっている。これまでの生活スタイルや価値観を一変させ、どのような都市や国土の姿が望ましいのか、はっきりしなくなってきた、しかし、人類の大部分が都市に住むほかはなくなり、都市現象の中に巻き込まれているのは事実である。このようなときに、漫然と変化の波に流されるのではなく、これからの都市のあり方には、人類の新しい知恵を求められる。都市政策はそれに応えようとする方法や政策を求める新しい学である。

都市化の過程の中で出現した世界最大の都市は、日本の東京である。ここで東京とは、東京都という人為的な範囲だけをいうのではない。神奈川、埼玉、千葉を巻き込む巨大な都市圏全体を含むもので、人口は3000万人を超えてしまった。そこに、さまざまな問題が発生し、混沌としている。最近は大遷都なども、かなりの具体性をもって論じられている。しかし、この東京も、かつては関東平野の中でも地の果てのような未開の土地であった。

今年の講義では、世界のなかでも最大の都市になったこの東京を取上げ、東京がもともとどのような土地であったかを探り、いかにして都市が発生し、今日まで成長・変化を遂げ、さらに現在および将来にどのような課題を抱えているかを検討する。それは、東京という一都市の問題だけではなく、良くも悪くも「都市の時代」の都市を代表するのに最も代表的なものだからである。また、東京は当然に地方との関係で成立しているものであり、国土レベルからその関係も検討する。また折に触れ世界の各都市とも比較してみたい。

テキスト：田村 明著『江戸東京まちづくり物語』（時事通信社）

『まちづくりの発想』（岩波新書）

【95年度法学部講義ガイド 第一部】

【95年度法学部履修要綱 第二部】

## 都市政策

20世紀は、文明史のなかの大きな転換点であった。前野精機から続いて科学技術の進歩は、この世

紀に飛躍的な発展をみせ、これによって産業構造は激変し工業社会を産み、さらに情報技術の革命的な進化は、ポスト産業化社会、情報化社会へと変化を遂げつつある。

とくに、交通手段・情報手段の進展は、距離や時間の障害を克服していった。その結果もあって、国際化も進み、国境の政治的な壁が低くなってきた。

こうした多くの状況の変化は、その帰結として人口の集中を生み、「都市化」という現象になっている。20世紀半ばまでに、すべての先進諸国で都市化が進み、人口の大半が都市に居住するようになった。日本は、やや先進諸国に遅れて都市化が始まったが、その勢いは急激だった。いまや発展途上国で都市化が急激に進み、巨大都市も生まれている。

都市化は農村部から人口を吸収することによって行われるが、その結果、前世紀では考えられなかったような超巨大都市を出現させた。それは、農村部の生活ばかりでなく、都市自身の性格を大きく変化させた。20世紀は「都市化の時代」であり、その波によって生ずる都市現象は都市・農村を含めた全国に及んでいる。

それでは、来るべき21世紀はどういう時代か。それは「都市の時代」と呼んでよい。人類の大部分は都市に住むほかはない。たとえ都市に住まなくても都市現象に巻き込まれている。それは、これまでの産業構造も、価値観や生活スタイルまでも一変させてゆく。

だが、漫然と都市が形成されてゆくのに任せているだけでは、多くの衝突も生まれ、問題が発生する。多様で多数の人間が共同して生活する社会と環境としての都市は、常に多くの矛盾もあり、問題も孕んでいる。その発生を予防し、問題を解決し、より望ましい都市のありかたを求めるのが都市政策である。それは、人類がよりよく生活し、生き延びてゆくための知恵であり、地球全体にかかわるとともに、きわめて身近な問題である。

この講義では、まず現代都市はどのように発生し、そこにどのような問題が生じているか。それに対してこれまでどのような政策がとられてきたかを概観する。さらに、これからの都市を考えるに当たっての基本的な考えがいかにあるべきかを検討する。そのうえで、現代の都市政策としての基本的な課題として、東京一極集中、土地、住まい、ごみ、公害などの各論的な問題についても、できるだけ多くの問題もとりあげたい。時間の余裕があれば、横浜市における具体的な都市政策の実践例についても触れたい。

テキスト：田村 明著『現代都市読本』（東洋経済新報社）

『都市ヨコハマをつくる』（中公新書）

参考文献：田村 明著『都市を計画する』（岩波書店）

『まちづくりの発想』（岩波新書）

『江戸東京まちづくり物語』（時事通信社）

『都市ヨコハマ物語』（時事通信社）

『都市の個性とは何か』（岩波書店）

『環境計画論』（鹿島出版）

『自治体の政策形成』＜編著＞（学陽書房）

以上